

令和7年度 全国農業大学校等 プロジェクト発表会・意見発表会 講評

全体審査委員長 長尾 慶和

1. はじめに

今回、審査委員長として初めて「プロジェクト発表会・意見発表会」に参加させていただいた。会場に入って、発表する学生や運営担当の学生たちの緊張感、参加する先生や同級生達の熱気に圧倒された。各学校での課題への積極的な取り組みや先生によるご指導を踏まえて、全国の各ブロック予選を勝ち抜いてきた発表は、どの発表も地域の課題を的確に抽出したものであり、スライドや発表態度は洗練され、積み上げた努力を存分に発揮したものばかりで、驚きの連続であった。どの部門においても審査委員会の評価は高かったが、僅差ではあっても、最終的に評価が分かれたポイントを中心に全体を総括したい。

2. プロジェクト発表 養成課程の部

全国から選抜された15題が発表された。分野は、野菜、果樹、作物、畜産、施設・システムと多岐に渡り、農業大学校らしい、地域に根ざした充実した取組ばかりであった。ただ抽出した地域の課題について、解決に向けて行動に移す前に、その課題が地域の中でどのように変遷し、どのような解決が模索されてきたのか、といった「背景」に対する調査や考察が不十分なケースが見受けられた。どんな試験も活動も、現状に至るまでの背景をしっかりと見据え、その成果や教訓を活かすことで、的確なプロセスで生きた成果に繋がる。背景に対する調査が不十分なままに試験や活動に取り組むことで、取組のフォーカスがぼやけ、結果的に成果の活用が限定的になってしまうケースがあった一方で、取組の成果がすでに大きな広がりつつある活動もあった。成果の地域還元の成否や今後の可能性は評価の大きなポイントの1つであるが、その成否の鍵は取組前の調査と熟慮が握っていることを意識してほしい。

3. プロジェクト発表 研究課程の部

今年も発表が3課題と少なく、部門別の内訳は野菜（さつまいも）、果樹（ニホンナシ）及び畜産（乳牛を利用した和牛生産）であった。発表者は男性が1人、女性が2人であった。野菜と畜産は自家の経営改善に役立てるための新たな挑戦について、また、果樹は輸出拡大に向けた貯蔵法の開発について発表しており、いずれもテーマ、調査研究の内容、それらの展開方向など研究過程の発表として遜色なかった。また、発表態度もよく、質疑応答も的確であった。その中で、最優秀賞に選ばれた畜産の発表がより深い調査・分析と自家経営の展望が示されていた。

4. 意見発表の部

発表者は男性6人、女性4人で、皆さん堂々とした態度で発表できていた。ただ、あまり派手な手の動きは逆効果になっているようにも思えた。また、できれば手元の原稿に目を落とすことなく会場の聴衆に語りかけるように話すにより印象が良かった。内容的には、新規就農への想いが大半であったが、行政に就職して農業現場のサポートで頑張りたいという発表もあり、農業へのいろんな関わり方が示された。また、今回は就農することで地域の農業を活性化させたいという思いが語られた発表が多かった。全体としては、それぞれの思いがしっかりと語られていて、甲乙つけ難い発表であった。その中で、上位に選ばれた発表は、就農の動機を自分の中で深く咀嚼・考察し、それを実現させる形を明確に示すという点で優れていた。意見発表で求められている夢や希望を、どれだけ現実性を伴って具体的に示せるかが重要である。皆さん優れた発表であったがより良い形にするための参考にしていただきたい。

5. 総括

プレゼンテーションツールは、一昔前に比べて飛躍的に進歩し、写真や図表や文章を自由自在にスライドとして表現できるようになった。時間を掛ければ掛けただけ見栄えが良くなる。綺麗で解りやすいスライドは今やプレゼンテーションの最低条件になっている。その上で、それを発表するのは今も変わらず一人一人の学生自身である。僅差であっても評価に差がつく要因の1つに、個々の学生のプレゼンテーション力の差が挙げられる。原稿に目を落としながら読み続ける発表と、原稿を自分のものにした上でスライドや聴衆を見渡しながら行う発表では、伝える力に大きな差がつくことを意識してほしい。発表内容については、どの発表も地域課題にしっかりと向き向き合う中で抽出されたテーマかりで、課題を解決した後の貢献（出口戦略）もしっかりと見据えている点で、どの発表も審査委員の評価が高かった。一方で、それぞれの地域がその課題の解決に向けて取り組んできた経緯に対する調査が不十分で、結果的に課題の絞り込みやアプローチの手法が甘く、地域に貢献するパワーが不十分なケースが散見された。また、課題設定のタイミングや分野にも依ると思われるが、解決に向けて取り組んだ症例数や試験設定が不十分なケースも見受けられた。経緯・背景に対する十分な分析の上に立ったより確かなアプローチの積み重ねこそが、課題解決の近道である。今後の取り組みの参考にして欲しい。

以上、発表会で評価されるためのポイントを中心にコメントしたが、最も重要なことは、取組が地域課題の解決にしっかりと繋がることである。それぞれの活動や試験が、発表会で発表して終わりではなく、地域で継続的に取り組まれ、地域課題の解決に向けた真の力になることを期待して講評を終えたい。